

最近の未熟児網膜症による失明の動向

東京都心身障害者福祉センター

原 田 政 美
岡 田 節 子

研 究 目 的

最近における未熟児網膜症による視覚障害の発生状況とその実態を明らかにし、療育上の問題点を検討する。

研 究 方 法

東京都心身障害者福祉センターに来所した視覚障害乳幼児を対象とし、未熟児網膜症による失明の最近の傾向、および合併している心身の異常を調査する。ただしセンターでは、未熟児網膜症が視覚障害の真の原因であるかどうか確認することが困難なので、その疑いの濃いものをここでは網膜症児とみなした。視覚障害乳幼児と呼ぶものの範囲は、両眼ともに回復不能な視覚障害があるため日常生活にかなりの不自由があるか、あるいは不自由があると推定されるものである。視力でいえば0.04以下のものが多い。これらのうち、行動が手さぐりになる程度のものを盲とし、視覚に依存した行動が可能な程度のものを弱視とした。

研 究 結 果

東京都心身障害者福祉センターに来所した視覚障害乳幼児は、最近3年間平均で1年につき28名である。このうち未熟児網膜症によるものは6名(21.4%)である。それ以前3年間の平均では、46名に対し11名(23.9%)となっている(表1)。

弱視程度のものの来所年齢は盲のものよりも遅れるのがふつうである。これは、盲と判明すると早期に来所するが、弱視程度でも視力がある場合には、3歳ごろになって教育その他で悩みが大きくなってから来所する傾向があるためである。したがって最近2~3年の新規来所児と、その後新規に来所するものを合計した数字が本当の意味での来所総数となるわけである。その意味において、最近2~3年の数字は、それ以前の数字よりも小さいのが自然であるといえるが、一応、最

近の未熟児網膜症による視覚障害乳幼児を、生年度別および生下時体重別に分類してみると表2のようになる。

表2の4年間の合計15名を盲と弱視とに区分すると、盲7名に対し弱視8名である。最近10年間の網膜症児64名の区分は、盲43名に対し弱視21名であるから、従来は弱視よりも盲のほうが多いのがふつうであった。この傾向は最近変化し、盲が著しく少なくなったわけである。実際に最近では、未熟児網膜症のために全盲あるいはそれに近い状態になった子どもに接する機会は稀である。

この15名のうち、明らかな精神遅滞が認められるものは8名(53.3%)である。このように重複障害を呈する子どもが多いのであるが、この傾向はこの10年来同様である。すなわち、最近10年間の網膜症児64名のうち、明らかな精神遅滞が認められるものは36名(56.3%)である。

考 察

東京都心身障害者福祉センターに来所した視覚障害乳幼児の状況から、わが国全体の傾向を明らかにすることは無理であるとしても、最近において未熟児網膜症による視覚障害、とくに盲となるものの数が減少していることは確かである。またその発生が、極小未熟児に限られてきていることも確かである。

一方、諸外国における発生状況については、正確な情報の入手が容易でないので比較が困難であるが、北欧6か国の視覚障害児4306名を対象とする調査では(表3)、先天性白内障688名に対し未熟児網膜症は387名とかなり少ない。センター来所児では(表1)、この関係が逆である。これだけを見ると、未熟児網膜症による視覚障害の発生予防に、わが国では一段の努力が必要であると思われる。しかし北欧6か国のものは年

長児まで含んでいるし、視覚障害の程度もセンター来所児と一致しているわけではない。諸外国の情報との正確な比較は、条件が同一でないという点からきわめて困難といわねばならない。

精神遅滞の重複については、この10年来ほぼ同率であって、とくに最近増加していることはないが、この予防にも一層の力を注ぐべきことはいうまでもないであろう。

要 約

東京都心身障害者福祉センターに来所した視覚障害乳幼児についてみると、この2～3年は未熟児網膜症によるものが減少し、とくに盲の状態を呈するものが少なくなっている。しかし精神遅滞の重複率は不変である。未熟児網膜症による視覚障害の発生、および重複障害の発生の両者の予防につき、一層の努力が必要と思われる。

表1 東京都心身障害者福祉センターに来所した視覚障害乳幼児数

原因疾患	昭50～52年 3年間平均	昭53～55年 3年間平均
未熟児網膜症	11	6
先天性白内障	7	4
視神経萎縮	4	2
小眼球	4	3
先天性緑内障	3	2
網膜芽細胞腫	2	2
その他	15	9
計	46	28

表2 未熟児網膜症による視覚障害乳幼児の来所数

生下時体重	昭51	昭52	昭53	昭54
<1000	3	0	3	0
<1200	2	0	1	0
<1300	2	0	0	0
<1400	1	0	0	0
<1500	0	1	0	1
不明	0	0	1	0
計	8	1	5	1

表3 北欧6か国の視覚障害児の失明原因

原因疾患	視覚障害児数
視神経萎縮等	770
先天性白内障	688
網膜変性等	642
奇形	534
未熟児網膜症	387
白児眼	197
ぶどう膜炎	175
近視	197
計	4306

Schappert-Kimmijser et al. (1975)による。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約

東京都心身障害者福祉センターに来所した視覚障害乳幼児についてみると、この2~3年は未熟児網膜症によるものが減少し、とくに盲の状態を呈するものが少なくなっている。しかし精神遅滞の重複率は不変である。未熟児網膜症による視覚障害の発生、および重複障害の発生の両者の予防につき、一層の努力が必要と思われる。